

自然の驚異 雷被害の実態 次のような内容を掲載予定です。(作成中)

(1) 雷発生統計

雷ニュースNo.26 から近年の気象現象を抜粋します。

『全国気象官署の雷日数の長期変化傾向』

2017 年春の気象学会で雷日数の長期変化傾向について新潟地方気象台(現在, 東京管区気象台業務課)の吉村香氏より発表がありましたので, ここに紹介したいと思います。

58 の気象官署について, 1931~2015 年(冬は 1932~寒候年)までの観測データを用いて, 年及び春(3~5月), 夏(6~8月), 秋(9~11月), 冬(12月~2月)の季節毎に雷日数の長期変化傾向を算出したところ, 年としては全体の 6 割程度の気象官署で増加傾向が認められたようです。

表-1.全国気象官署における雷日数の長期変化傾向
(年・季節毎, 顕著な傾向のある官署) 単位: 日/年

気象官署		資料数	年	春	夏	秋	冬
北海道	稚内	78	0.08	-	-	0.05	0.01
東北	青森	85	0.10	0.02	0.02	0.03	0.03
	秋田	85	0.25	0.05	-	0.06	0.13
北陸	新潟	85	0.28	0.02	-	0.06	0.18
	富山	77	0.30	0.05	0.05	0.06	0.15
	金沢	85	0.43	0.05	-	0.09	0.28
	福井	85	0.34	0.03	-	0.07	0.22
関東	水戸	85	-	0.02	-0.06	-	-
	前橋	85	-	-	-0.06	-	-
	熊谷	85	-	0.03	-0.05	-	0.00
近畿	奈良	62	0.18	0.05	-	0.05	0.02
中国	鳥取	73	0.26	0.06	-	0.04	0.16
	松江	75	0.23	0.04	0.04	0.04	0.11
	広島	85	0.09	0.02	0.05	0.02	-
四国	徳島	85	0.11	0.02	0.05	0.04	-
九州北部	下関	85	0.13	0.03	0.05	0.02	0.03
	福岡	85	0.17	0.03	0.06	0.04	0.04
	佐賀	85	0.11	-	0.06	0.03	0.01
	大分	85	0.17	0.02	0.12	0.03	-
	長崎	85	0.16	0.03	0.07	0.04	0.02
	熊本	85	0.17	0.03	0.09	0.04	0.02
九州南部	宮崎	85	0.12	-	0.07	0.03	-
沖縄	鹿児島	85	0.20	0.04	0.09	0.05	0.02
	宮古島	77	-	-	0.06	0.03	-

表中数値は年または季節毎の傾きで, 「-」は長期変化傾向が有意ではないことを示す。

 は顕著な傾き。

出典: 気象学会2017年春季大会予稿集

表中の数値は 1 年あたりの変化を回帰直線の傾きで示している。例えば金沢の観測期間 85 年間の変化は, $0.43 \times 85 \text{ 年} = 36.55 \text{ 日}$ の増加傾向となります。

この表によりますと北陸地方は春・秋・冬に増え, 北関東では夏に減っています。また, 九州全域では夏に顕著に増加しているのが分かります。

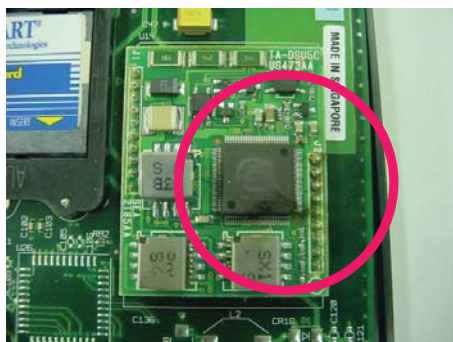
(2) 建築物等の被害の被害実態

- ・被害写真
- ・被害を受けた場合の『被害調査記録用紙』

(3) 電気・電子機器の被害実態

- ・被害写真

■DSU基板の被害



火災報知器の被害



ブレーカーの被害



(4) 参考となる資料

- ・ JLPA にて 2011 年 8 月 1 日発行の「雷被害」があります。

日本及び世界主要国の実態調査 自然の脅威『雷被害』



発 行 : 一般社団法人 日本雷保護システム工業会

編 集 : JLPA 雷被害実態調査分科会

A4 版 75 頁 定価 2,000 円 (税込) 送料別途

〔内容目次〕

第 1 章 雷被害の調査報告

損害保険における雷被害額

日本における雷被害の様相

外国における雷被害の様相

第 2 章 雷による被害写真

直撃雷による被害写真

雷サージによる被害写真

まとめ

購入は 次の URL から

<https://www.jlpa.jp/publication/order.html>